



令和7年 5月号 園だより

江戸川区立船堀幼稚園

—教育目標—
元気な子ども
明るい子ども
考える子ども
思いやりのある子ども

園長 東 美和

～砂場で遊ぼう～

園内の木々が一齐に芽吹き、新緑が美しい季節になりました。花壇にはカタバミやビオラが色とりどりに咲いています。進級、入園してもうすぐ1か月。好きな遊びをすぐに見つけて遊ぶ子もいれば、「今日は何をしようかな?」と周りの様子や友達を見てから遊び始める子、学級みんなで一緒にする活動を楽しみにする子等がいます。それぞれのペースで園生活に慣れてきたようです。

子どもたちに人気の遊び場のひとつに「砂場」があります。この季節の砂場は、不思議なほど解放感と安心感が味わえる場所になっています。先日、学習院大学教授の秋田喜代美氏が「春の砂場」について、次のようなことを述べていました。

『ロバート・フルガム著「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」の第一章にある生活信条「何でもみんなで分け合うこと」「ちらかしたら自分で後片付けをすること」「人のものには手を出さないこと」などは、言葉で教えられなくても、子どもは見て、自分のペースで学んでいく。一方で、砂は場であり、対象として想像性と創造性を満たしてくれる。環境とはどうあったらよいのか、春の砂場自体は語らないが、子どもの動きがさまざまなことを培っていくことを教えてくれる。』(日本教育新聞より)

砂場には決まった「遊び方」はありません。子どもたちは何を楽しんでいるのでしょうか。

- ふわふわの砂や水を混ぜた時の泥を触ると気持ちいい
- カップに入れて固める、山や海、トンネルを作る等、形が変わっておもしろい
- 昨日大きい山を作ったから、今日は昨日よりもっと大きい山を作ってみよう
- 山を作ってトンネルを掘りたいけれど、すぐ崩れてしまう。どうしようかな? etc

砂場で遊ぶことで子どもたちは、自分なりに作り、考え、友達と一緒に作る楽しさを感じ、「もっとこうしたい!」という遊びの意欲が育ちます。そのために、子どもたちが砂場でたっぷり遊べる時間・空間・場所があること、自分たちを温かく見守る人(教師)がいることも大切です。これからの季節、砂場で水を使ったり、ダイナミックな活動をしたりすることでしょう。砂遊びから子どもたちのどのような成長が見られるのか、楽しみです。



カップに砂をいれてみよう



友達と大きい山を作ったよ



こいのぼりの下でよーいどん!